

基本研修・選択：救急科・麻酔

・プログラムの目的と特徴

本プログラムは、救急室及び麻酔科で行う3ヶ月の卒後臨床研修プログラムである。救急部門研修の目的は、初期救急医療に関する基本的な臨床的知識及び診療技術を習得することにある。

具体的には、生命や機能的予後に係わる疾病や外傷に対する初期対応能力を身につけることが目的となる。

また、救急現場での研修を通して、人間として社会的常識を備え、患者や医療スタッフと良好なコミュニケーションのとれる医師となることを目指す。

・医師リスト

研修指導責任者：深田 祐作（救急科、麻酔科）

指導医：田澤 浩司（整形外科、救急室長、手術室長）

荒木 功（麻酔科非常勤）

・プログラム参加部局

1) 救急室

2) 手術室（緊急手術、気管挿管実習）

・プログラム管理運営および指導体制

プログラムの責任者、研修指導者、研修指導医の合議によりプログラムの管理運営を行い、指導は研修指導責任者と指導医が行う。

・研修方法と内容

救急室に勤務し、研修は当該科の指導医の協力のもとに実施する。

・研修カリキュラム

1. 研修目標

一般目標（GIO）

研修医自らが救急受診患者に対して適切な初期診療を行うために、必要な臨床知識、診療技術、診療態度を習得する。

行動目標（SBOs）

1) 救急患者に対する医療面接及び情報収集ができる。

2) 患者家族、前医、救急隊からの情報収集が適切にできる。

3) バイタルサインを測定し、評価できる。

4) 緊急検査をオーダーあるいは実施し、結果を評価できる。

- 5) 得られた情報を総合し、患者の重症度及び緊急度を評価できる。
- 6) 正確で理解し易いカルテ記載ができる。
- 7) 頻度の高い救急疾患の鑑別と初期治療ができる。
- 8) ショックの診断と治療ができる。
- 9) 外傷初期診療が実施できる。
- 10) 二次救命処置 (ACLS) が実施でき、一次救命処置 (BLS) を指導できる。
- 11) 専門医への適切なコンサルテーションができる。
- 12) 大災害時の救急医療体制を理解し、自己の役割を把握できる。

2. 経験すべき緊急を要する病態

- 1) 心肺停止
- 2) ショック
- 3) 意識障害
- 4) 脳血管障害
- 5) 急性呼吸不全
- 6) 急性心不全
- 7) 急性冠症候群
- 8) 急性腹症
- 9) 急性消化管出血
- 10) 急性腎不全
- 11) 急性感染症
- 12) 外傷
- 13) 急性中毒
- 14) 誤飲、誤嚥
- 15) 熱傷
- 16) 精神科領域の緊急を要する病態